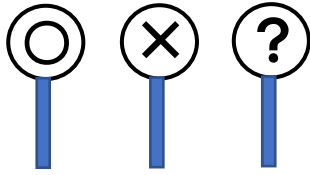


担任

### 3 数を言おう

指導者 ( )

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
<b>前時の復習</b> ・前時に使ったイラストを見せたり、Tが実際に紙を床に捨てたりして、「いい?だめ?」と問いかける。	5分	・授業開始の挨拶をTが言う。
<input type="checkbox"/> ①1から10の言い方が分かる ・低学年の場合は、具体物を数えることから始める。 ・数カードを1～10まで並べる。 T: いち、に、さん、よん、ご、ろく、なな、はち、きゅう、じゅう (と指さしながら読む)。 ・1から順に、一つずつTの後について言う。 ・数カード1～5までなど限定して並べたり、3から並べたりしていろいろなやり方で読む。 ・早く覚えられる場合は、10から逆に言う、カードをばらばらにして言うなどの活動をする。 ・カルタのように、教師が言った数カードを取るゲームをすることもできる。	15分	・国により数字の書き方が違ったり、その国独自の数字を使っていたりすることに注意する。 ○数カード (算数セット) ○小学校1年生の算数プリントを使ってもよい。 ○「ぷりんときっず」→算数プリント: 幼児～1年生→数字の練習 ・1回で全て覚えるのではなくこの後も繰り返し学習して覚えるようにする。
<input type="checkbox"/> ②「わたしは〇歳です」を言う <input type="checkbox"/> 「はい」「いいえ」で答える ・右のテキストを示し、「わたしは～歳です」の言い方を知る。 T: あなたはルイスさんですか (「?札」を見せる)。 S: (おかしいなという表情) T: (×の札を上げながら) いいえ。 あなたはカルロスさんですか。 S: (うなずく) T: (○の札を上げて) はい。 ・Sに札を渡し、年齢を尋ねて「はい」「いいえ」の言い方に慣れるようにする。	13分	○『みえこさんのほんご』P14～17 ・○、×の手持ち札と同様に「?札」も用意しておいて活用することもできる。S用とT用の2セットあるとよい。 
<input type="checkbox"/> ③「ある」「ない」を言う ・Tがおはじきを一方の手の平に置き「ある」と言いながら見せ、もう一方の手の平を見せ「ない」と言う。 ・Tが後ろ手でおはじきをどちらかの手に隠し、「ある?ない?」と問いかけて当てるゲームをする。 ・おはじきをSに渡し、Sが隠す側になり、「ある?ない?」と問いかけ、Tが答える。 ・鉛筆、消しゴムの実物を見せながら、「鉛筆、ある?」等の会話をする。	10分	○『日本語学級1』P14～17 ○おはじきや消しゴムなど手に隠せる物 <input type="checkbox"/> 鉛筆 <input type="checkbox"/> 消しゴム
<b>本時の振り返り</b> ・本時で学習した語彙や表現を復習する (イラストを見て、言葉を言う、年齢を言うなど)。	2分	○本時で使用した数カードやイラストなど
<b>メモ</b>		

日本語初期指導  
ぐんぐんプログラム